

第2回 つつじが丘地域 地域ケア会議の報告



地域ケア会議とは・・・

高齢者が住み慣れた地域でいつまでも暮らし続けられるように、一人では解決できない困りごとを地域みんなで解決していこうとする場です。これからの暮らしを豊かにするための話し合いの場です。

- ・困りごとに対してみんなで協働してネットワークをつくり、お互いの役割を明らかにする働き
- ・地域の課題を発見する働き ・地域に必要な資源は何かを明らかにして地域づくりを行う働き

H28年8月に第1回地域ケア会議を行い、

「つつじが丘地域の良いところ・課題・理想の地域」について話し合いました。

自治会の組織等しっかりしていて人とのつながりはあるが、若い世代の力不足と地域全体でのつながりまで至っていない。

理想の地域は、一人暮らしでも安心・安全に最期まで住める地域、声かけしやすい関係づくりができる地域になればよい。

今以上に隣近所同士とのつながりが持てるようにしていくこと、人としくみをつなぐことが課題。

自治会がしっかりしていて行事も多くあるが、若い世代の参加者が少なく、参加者の顔ぶれが同じであるとあんしんすこやかセンターも感じていたことから、

第2回は、「地域行事等に新しい参加者を増やすにはどうすればよいか」について意見交換することにしました。

第2回地域ケア会議の様子をお伝えします。

<日時> 平成29年9月26日(火) 13:00~14:30 <場所> つつじが丘自治会集会所

<参加者>自治会役員・支部長・班長・ふれまち・民生委員・ケアマネジャー・デイサービス相談員・

区社会福祉協議会・区あんしんすこやか係・あんしんすこやかセンター 等 **計：42名**

『地域行事の参加者を増やすには』をテーマに、7つのグループに別れて意見交換を行いました。



グループワークの様子



(1) 行事等に参加者が増えない理由は？

- ・メンバーの固定化
- ・馴染みにくい
- ・敷居が高い、ハードルが高い
- ・一人では行きにくい
- ・興味がない人が多い
- ・煩わしい、参加したくないと思っている
- ・時間が持てない
- ・広報を見ていない
- ・活動実態が見えにくい、内容が分からない
- ・福祉センターの場所を知らない
- ・家族が安全面を心配し外出させない
- ・身体面や坂道の環境面で、会場まで行くことが困難
- 等



(2) 行事等に参加してみようと思ってもらえるための工夫と周知方法は？

- ・見学时笑顔で迎える、柔らかい声かけや雰囲気
- ・呼びかけ、口コミ
- ・本人が会場を覗く
- ・家族や団体、若い世代の協力を得る
- ・時間の工夫
- ・サークルを絞る
- ・広報の工夫…顔写真入りのポスター、年間行事一覧、SNSの活用、案内チラシを小学校に配布する
- ・サークル体験、説明会、見学会
- ・単発のイベント
- 等

グループの意見発表の様子



<コメント>

小寺自治会長より

人脈を通して活動が広がる。メンバーが固定し入りにくいという声もあるが、中に入れてもらうと温かく迎えられるので、まず中に入れてみてください。

ふれまち長谷川委員長より

5月に配布する『福祉センターたより』でサークルの紹介をしています。自治会のホームページでもサークルの内容、時間等写真付きで掲載。高齢者のみの行事はカラーの案内チラシを配布しています。

終了後、あんしんすこやかセンターで考えた今後の取り組みについて

- ・地域ケア会議後の11/8(水)に実施した『第6回つつじが丘地域 認知症高齢者声かけ訓練』の初めての参加が増えた。(地域ケア会議の効果かどうかはわからないが、新たな参加者を増やすことができた)
 - ・行事に参加していない方には、多くの行事があること、主催者が様々な広報を行っていることを知ってもらう事ができた。また、主催者側にも参加できていない方がいること、新たな参加者も増やしていかなければならないことを意識してもらう事ができた。
- ⇒地域行事に関しては、現在多くの行事があるため、より活発な活動となるよう地域住民間で検討をしていただきたい。あんしんすこやかセンターの関与は不要と考える。新たな集いの場の立ち上げ等の希望も特になかったため、あんしんすこやかセンターとして関与・検討していくテーマとしては、『地域行事について』は一旦終了とする。
- 来年度の地域ケア会議の開催と内容については、今後検討していくこととする。